

## ◎「インテリジェント・デザイン」めぐり米教育界で混乱

【C J C、11/14】生命の誕生には何らかの知的計画が関与したとする「インテリジェント・デザイン」（知的計画）を授業で教えようとする動きが米国で出ている。これまで米国では、進化論支持者と、旧約聖書創世記にあるように神が天地を創造されたとする天地創造説支持者の対立が続いてきた。

市民の過半数が創造説を信じているという世論調査もある米国では、公立学校で「創造論」を教えることの是非が問われてきたが、憲法には政教分離原則が盛り込まれており、1987年に最高裁が「聖書の創世記を授業で教えることは、政教分離に反する」と判断して以来、公立学校で「生命は神がつくった」とは教えられない。

そこへ出て来たのが「インテリジェント・デザイン」で、ダーウィンの「進化論」では生命誕生のなぞに答えられないとして、「時間をかけたからといって、複雑な生物は生まれ得ない」「より高度な『力』が、生物を創造した」など、生物が誕生して固有の形をもつようになった背景に何らかの知的計画があると主張する。「神」や「創世記」といった言葉を用いてはいないものの、進化論支持派は、「インテリジェント・デザイン」について天地創造説の「神」を「知的計画」に置き換えたただだと批判している。

11月8日、東部ペンシルベニア州と中部カンザス州でこの問題に関して、相反する決定がなされた。ペンシルベニア州南部の町ドーバーでは、教育委員会の選挙で「インテリジェント・デザイン」を支持する8人が落選した。

昨年、生物の授業で「進化論には『穴』があり、「インテリジェント・デザイン」は穴を埋める理論の一つだ」とする文書を教師が読み上げることを学校区委員が決めた。これが政教分離原則に反するとして法廷論争が続いている中でのこと。

一方、カンザス州の教育委員会は8日、公立学校を対象とした「生命誕生をめぐる科学的な論争」を教えるとするカリキュラム改訂案を賛成6、反対4で可決した。直接言及していないが、授業で進化論だけでなく「インテリジェント・デザイン」にも触れることを示している。

指針は変更されたが、「インテリジェント・デザイン」を授業に取り入れるかどうかは、各学校の判断に委ねられる。しかし地域によっては導入圧力がかかることは避けられないと見られている。

## ◎「一夫多妻が暴動の要因」 閣僚ら発言、人権団体非難

【共同通信、11/17】フランスの閣僚らが16日までに、各地で続発する暴動とイスラム社会やサハラ以南のアフリカで多くみられる一夫多妻とが関係あるような発言を相次いで行い、人権団体が「差別を助長する」と強く非難している。

暴動に加わった若者の多くがイスラム教国やアフリカ移民の2世や3世だが、ラルシェル雇用問題担当相は15日、外国人記者らに「一夫多妻の家族出身の若者は、父親の影が薄いため問題行動を起こしやすい。それが雇用をためらわせる」と発言。サルコジ内相もフランスの週刊誌に「一夫多妻はアフリカ出身の若者の同化を難しくしている文化的違いの一つだ」と語ったほか、与党の有力議員もラジオで同様の発言をした。

サルコジ内相の「社会のくず」発言が暴動激化の要因となったこともあり、人権団体は「発言は挑発的で、外国人排斥や人種差別を助長する」との声明を出すなど閣僚らの不用意な発言を一斉に非難した。

フランスでは一夫多妻は禁止されているが、1993年までは移民の複数の妻にも査証（ビザ）が出

されており、政府は8000-1万5000の一夫多妻世帯があると推定している。

### ◎政権死に体化回避の狙いも 教会での中国宗教政策批判

【共同通信、11/20】ブッシュ米大統領が胡錦濤・中国国家主席との会談に先立ち、北京市内のプロテスタント教会で中国当局の宗教管理政策を強く批判したのは、ハリケーン災害対応の不手際や米中央情報局（CIA）工作員名漏えい事件で指摘される政権のレームダック（死に体）化を回避したいとの狙いもあったとみられる。

17日に発表された最新の米世論調査で、ブッシュ大統領の支持率は政権発足以来最低の34%を記録、米国民の政権に対する信頼は“どん底”の状態にある。

大統領は教会でのスピーチで「中国政府は、祈りのために集まるキリスト教信者を恐れないでほしい」と述べ、異例の直接的表現で宗教政策に寛大になるよう促した。

この日が日曜日だったこともあり、ホワイトハウスは大統領による礼拝への参加を重視。胡主席との会談で表明した宗教分野での自由を含む民主化要求の言葉より強い表現で「宗教の自由の拡大」を求めた。

中国の宗教政策に対してはこれまで、大統領の強固な支持基盤とされてきた宗教右派が強い批判を続けてきた。

米政界では最近、宗教右派も「ブッシュ離れ」を起こし始めているとの見方もある。ブッシュ大統領は連邦最高裁判事に保守派判事を指名したことに続き、この日の「パフォーマンス」によって宗教右派の政権へのつなぎとめを図っているようにも見える。

## フェミニスト神学



## フェミニスト神学の歴史

- ❖ 前史: エリザベス・スタントン『女性の聖書』(1898年)、「これは神の言葉を聞き間違えた男たちの言葉である」
- ❖ 1960年代後半にアメリカを中心に広まった女性解放運動の一部として、フェミニスト神学は始まった。
- ❖ メアリー・デイリー『父なる神を越えて』(1973年)、「神が男性であるなら、男性が神である」
- ❖ 今日、非常に多様化している。



## フェミニスト神学の目的

- ❖ キリスト教における男性中心主義に対する批判とその克服。
- ❖ フェミニスト神学は、単に「女性的」テーマを考察するのではなく、神学のあり方を根本的に問い直す。



## フェミニスト神学の位置づけ

- ❖ 現代世界においては多様な女性理解が存在している。



## 女性理解とパターンナリズム

- ❖ それぞれの宗教で、固有の女性理解が主張され、受容されるのは「信教の自由」に属する事柄であると言える。
- ❖ しかし、多様な女性理解があることが提示されずに、ある特定の女性理解(性別役割分業)だけが独占的に主張されるのは一種の「パターンナリズム」ではないか。
  - パターンナリズム: 父親的温情主義



## フェミニスト神学の特徴

- ❖ 実体より関係を  
■ Relation over substance
- ❖ 不変より変化を  
■ Change over immutability
- ❖ 救済より解放を  
■ Liberation over salvation
- ❖ 終末論より生態論を  
■ Ecology over eschatology



## フェミニスト神学の成果と展望

1. キリスト教の歴史的起源の再解釈
2. 女性の視点による聖書解釈の見直し
3. 「包含的言語」による聖書翻訳
4. 新しい神理解の形成
5. 異文化に生きる女性同士の連帯
6. セクシュアル・マイノリティとの方法論的連帯
7. エコロジー問題への新しい視座の提供



7

## 1. キリスト教の歴史的起源の再解釈

- ❖ 最初期、イエスによって促された伝統的価値観からの自由は、特に終末待望に裏付けられた宣教的情熱と結びついて存続した。そこでは男女が平等に参加する共同体が存在していた。
- ❖ 後に、ヘレニズム・ローマ社会の家父長制や性的二元論に順応するようになっていく。



8

## 2. 女性の視点による聖書解釈の見直し

- ❖ 男性の解釈者によって、しばしば無視されてきた、女性をめぐる言説・物語を再発見する。
- ❖ 性差別表現を含め、聖書中に性・性役割に関して内容的にはっきりと矛盾する箇所があることを認識することによって、ある特定の箇所が排他的に用いられることの無意味性と危険性を喚起する。
  - コロ3:18(男女の支配・服従の関係を強化)とガラ3:28(それを否定)、一テモ2:15(性と生殖とが一致した家父長制社会を代弁)とルカ11:27-28(それを破棄)



9

## 3. 包含的言語(inclusive language)による聖書翻訳

- ❖ 両性に対し平等であるよう、聖書翻訳や礼典の表現が見直されている。
- ❖ 例「主の祈り」における神への呼びかけ
  - Our **Father** in heaven
  - ↓
  - 1) Our heavenly **Parent**
  - 2) Our **Father-Mother** in heaven
  - 3) **Abba** God in heaven



10

## 4. 新しい神理解の形成

- ❖ 神の女性性を表す伝承に注目する。
- ❖ たとえば、知恵文学における「知恵」(ソフィア)の働きや、**ガイア**としての神など、従来の神理解には見られなかった側面を際立たせている。



11

## 5. 異文化に生きる女性同士の連帯

- ❖ 「女性」という言葉によって、もっぱら**白人女性**を意味していた、という初期フェミニズムへの反省を継承しながら、欧米以外の女性の声に積極的に耳を傾けようとする。



12

## 6. セクシュアル・マイノリティと の方法論的連帯

- 同性愛者は伝統的に性差別の対象とされることが多かったが、フェミニスト神学が獲得してきた聖書解釈や神学上の方法論は、セクシュアル・マイノリティのアイデンティティ獲得のためにも有益である。



13

## 7. エコロジー問題への新しい視 座の提供

- 代表的なフェミニスト神学者たちは、ほぼ例外なく、エコロジーの問題をフェミニスト神学の重要な課題と考えている。
- 男性によって抑圧されてきた女性と、人間（男性）によって抑圧されてきた自然の間に相関関係を見ている。



14